

草薙く少し油断の所を見まかり例の鉄棒を片時ふ
七人折えしくは勢に味方此勢中氣を失ひ毗沙門澤へ引
こへる流るる成生伯耆守家光大友兵庫進後若狭
鈴木屋有る大勢力者引きて天音此布城へ火を
かけぬ伯耆守直に御所へかけ入り系圖寺を持来
して義光の内目も怒りぬ此御在院限り無き事海河
上下の楯も灰塵となり余煙は多く所々一度は焼
ぬ流るるたけも味方勢今は是迄有り力及ん
諸何なり勢走ぎとて大泉内苑此湯村近江守五
十嵐隼人土屋長門守神后直に助佐後將監先
とて寛亮の令に切先を揃へ義光の本陣を公け面
も振る切て入る今を家後と戦ふなりけりお取り
たる首二十五級は勢ひも義光もやうに者共此働も
いかに何なる鉄壁敵も叶ふまじ將くは陣引やとて
松本清水の陣地へ引返す玉ふ然るに神后直に
山田勘兵衛布施彌助三人つ義光の篋元を公け切て
入る三人の折取所の首数公けと討取庄左馬助能き敵六頭
切落し深入して坂上紀伊守うきを怒り討死せり大泉
内苑助志村九郎直に切先をかりて五十嵐隼人は
坂上紀伊守うきをかり討死す其内に坂中陣は煙と